

私がわたしであること

森家の女性たち
喜美子、志げ、茉莉、杏奴

2016年 4月9日(土) - 6月26日(日)

開催時間 | 10時—18時(6月の金曜日は20時まで)
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 | 5月24日(火)

観 覧 料 | 一般500円(20名以上の団体 | 400円)

会 場 | 文京区立森鷗外記念館

※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料
※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット(押印入)、友の会会員証ご提示で2割引
※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

●展覧会関連講演会

「森茉莉の美の世界」

講師：太田治子(作家)

日時：5月22日(日)14時～15時30分

会場：文京区立森鷗外記念館2階講座室

定員：50名(事前申込制) 料金：無料

申込締切：5月6日(金)必着

●スペシャルトーク&上映会

「小堀家の風景 小堀杏奴・四郎を知る」

杏奴と夫で画家の四郎—二人の空間を記録したドキュメンタリー映画「信・望・愛—孤高の洋画家小堀四郎90才の肖像—」の上映と、監督・伊勢真一氏を迎えてのスペシャルトーク。

講師：伊勢真一(ドキュメンタリー映画監督)

金井景子(早稲田大学教授)

日時：6月4日(土)14時～16時15分(休憩あり)

会場：文京区立森鷗外記念館2階講座室

定員：50名(事前申込制) 料金：無料

申込締切：5月20日(金)必着

○申込方法

往復はがき：往信に「○月○日イベント」・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館「展示関連イベント」受付係までご応募ください。

Eメール：件名に「○月○日イベント」、本文に氏名(ふりがな)・電話番号・Eメールを明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jp にご応募ください。

※申し込みは、1通につき1名様(お一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。※ご不明な点等ございましたら、文京区立森鷗外記念館にお問い合わせください。

●ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。

2016年4月20日、5月11日、25日、6月8日、22日

いずれも水曜日14時～(30分程度)

申込不要(展示観覧券が必要です)

○電車 東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分

東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分

都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分

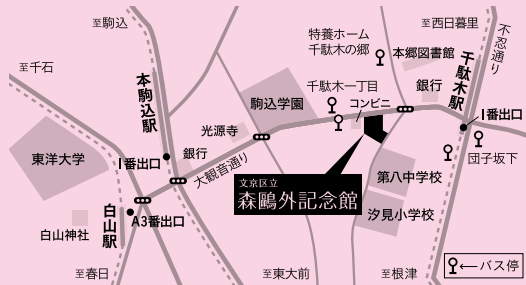
○バス 都営バス草63番系統「千駄木—丁目」下車徒歩1分

都営バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分

B—ぐる千駄木・駒込ルート

「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分

※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。



文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum
〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4
電話：03-3824-5511
URL: http://moriogai-kinenkan.jp



小堀杏奴
(1909～1998)

森茉莉
(1903～1987)

森志げ
(1880～1936)

小金井喜美子
(1870～1956)

明治を生きた喜美子(翻訳家・小説家)と志げ(小説家)は、女性にとって結婚が生きる手段そのものであった時代に、妻として家庭を守り、母として子どもを育てるという役割を担いつつ、文学に関わりました。明治から昭和を生きた茉莉(小説家・随筆家)と杏奴(随筆家)は、女性の在り方が変化していく中で、自身の成長とともに、文学的な才能を豊かに開花させて行きました。

文学活動が希望そのものであった喜美子、鷗外との葛藤をバネに唯一無比の作品群を遺した志げ、そして、唯美的で濃密な世界を紡いだ茉莉と、明晰さと繊細さをもって一族を見届けた杏奴——彼女たちの作品は、他人の思惑などどこ吹く風と言わんばかりに、それぞれの感性と倫理観に忠実で、読む者を魅了します。自らの考えや好みを綴る中で、彼女たちは「自分」という唯一無二の存在を作り出していったとも言えるでしょう。

これまで「鷗外という物語」に登場する女性のひとりではなかった彼女たちですが、今回は4人が主役の物語です。書簡や原稿、遺品など、彼女たちが愛したものと遺した作品を手掛かりに、4人の「わたし」を辿ります。



6



7



8



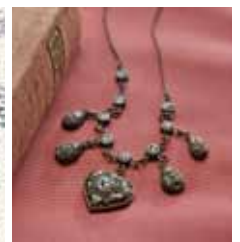
1



3



5



4

1 与謝野晶子朱入り喜美子短歌稿(昭和8年) 2 志げ自筆原稿「お鯉さん」(大正元年) 3 志げ著「あだ花」表紙(明治43年・弘学館)

4 鷗外から贈られた茉莉のモザイクの首飾り 5 茉莉自筆原稿「甘い蜜の部屋」第二部(昭和42年頃)

6 杏奴自筆原稿「思い出」(昭和28年) 7 杏奴のバリ留学時代のスケッチブック(昭和8年) 8 小堀四郎画絵皿 風景

2.5 鶴見大学図書館所蔵 4.7.8 世田谷区立世田谷文学館所蔵

designer: Mizobata Mitsugu(ikaruga.) photographer: Ryoosuke Kikuchi flower artist: Yoshiki Maeshiba